

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年10月11日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学政治学研究科	学年(プログラム開始時):	博士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	上海交通大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 (○)2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:金融) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要			
中国屈指のロースクールである上海交通大学凱原法学院。			
留学した動機			
研究対象に関する国際間比較の基礎となる知見の習得のため。また、就業中の企業より上海に派遣中であるため、ここので業務経験を研究に役立つ知見として昇華させるため。			
留学の時期など			
①留学前の本学での修学状況:	2015年	博士1	年生の夏 学期まで履修
②留学中の学籍:	留学		
③留学期間等:	2015年	9月~	2016年 6月
	博士1	年時に出発	
④留学後の授業履修:	2016年	博士1	年生の冬 学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年	年生の	月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		0 単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		4 単位
	留学後の取得(予定)単位		8 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2020年 3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	7年		ヶ月間
⑨留学時期を決めた理由:			
就業中の業務の都合			
留学の準備			
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)			

ほとんどがスムーズに進んだ			
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)			
就業ビザで問題なく就学できた			
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)			
上海は大都会とはいえ衛生面での不安はあり、極力多数の予防接種を受けてきた(上海赴任時)			
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)			
会社の関係等でカバーされているため、特段の手当てはしなかった			
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)			
留学許可願の申請			
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)			
TOEIC945、中国語は多少の会話と法律文書の読解が可能			
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど			
すでに上海での生活を開始しており、特に無し			
学習・研究について			
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。			
授業科目名	単位認定 の申請	授業科目名	単位認定 の申請
中国契約法	●		
中国会社法	●		
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)			

今後の研究の基礎とするため、中国民商法全般の基礎を習得することが目的。私が受講した潘偉教授は渉外弁護士としての実務経験もある方で、中国に関連する国際取引を想定した契約法、会社法について、実践面、理論面をバランス良く教わった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前期、後期各2単位ずつ。

④学習・研究面でのアドバイス

講義はすべて録音し、録音を聴きながらノートを作成していった。MacBook Airを使って講義ノートを取っていたので、録音も自然な形ですることができた。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

すべて英語の講義。ヒアリングできることは最低条件となるが、積極的に講義に参加するためには、スピーキングがかなり反応良くできないと難しいと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

勤務先が手当て

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は東京とほとんど変わらない。空気は、特に冬はひどいので、のどが弱い人は日本のマスクを用意すべき。なお、私は違うが、花粉症は症状が出ないようだ。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

上海は治安面では問題なし。ただし、交通マナーはかなり危ないので、歩行者としてよく周囲の状況を見て行動すべき。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

—

・留学に要した費用総額とその内訳

—

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
企業勤務の他は主に家族で行動。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
すべて英語を前提としており、語学面で不自由することはなかった。ただし、私の場合、受講スケジュールや講義の登録申請、成績表など、常にこちらから請求、催促しないと履修に関わる手続きを進めることができず、困った。スケジュール管理は自分の責任である必要がある。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は正式なものは少し離れた場所にある別のキャンパスだった。キャンパス内の大きな食堂は地元の方が運営しており中国語が必須。ただしカフェは英語が多少通じた。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
—
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
—
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
—
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 (○)2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) (○)5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中東、東南アジアや多数の英国人を含む欧州などかなり幅広い国々から留学生在が来ており、そのような学生たちと交流しながら学習することができた点は、非常に貴重な経験となり、また刺激となった。中国に対する各国の関心の高さが伺える。
②留学後の予定
引き続き就業しながら研究を継続の予定。
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
その国の法律が日本の法律となぜ違うのかを考えるには、その国に直接触れることが非常に役立つと強く感じている。実際に留学をしてみることで、思いがけず得るものがあるかもしれないので、日常生活を含めて好奇心を持ってアンテナを高くして過ごすべきだと思う。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。